

『多久の絵馬展』開催中！



多久市郷土資料館では、多久市内と旧多久領のお寺や神社に残る絵馬の展示をしています。

館内は、通常の展示物と様相が一変し、平安時代の36歌仙を描いたものや石炭掘りの様子を物語にした絵馬など70点を展示。資料館では、「先人たちが素朴な願いや祈りを込めて奉納した絵馬を民俗文化財として調査、公開し、絵馬の持つ魅力をみなさんに見ていただき、郷土愛を深めてもらえば幸い」と企画し、開催は11月28日までです。入場は無料です。

■問い合わせ 多久市郷土資料館
☎75-3002



▲廟内で行われる県重要無形民俗文化財指定の釈菜



▲お茶や漬物などで接待する多久町婦人会のみなさん



▲論語朗唱を披露する多久保育園児



僕のおねがい、かなえてね！

▲「孔子先生立体オブリジェ」願い事を書いて貼った

子どもたちの出演も 花を添えた 秋季釈菜 & 孔子祭

多久聖廟で10月24日、秋季釈菜の祭事を執り行いました。あいにくの雨でその後の孔子祭は断念する催しもありましたが、訪れた人たちは古式ゆかしい伝統と文化に包まれ、子どもたちの元気な姿にも感動!! 写真をご覧ください。

健康を支えるパワー食材▶が数種入った薬膳粥「釈菜ふるまいお受験粥」は、大好評！



これは、うまい！いける味だよ！



▲趙勇氏の揚琴演奏で「参列生徒の唱歌」を合唱する多久町老人クラブと中部小1～4年生

市長コラム

温 | 故 | 創 | 新

Message for citizen

地域医療充実のQCサークル

超高齢化社会の日本。まさに長寿社会です。健康は誰も願う。安定的で持続可能な医療が必要です。まして地域医療の充実はなおさら。医療と保健の連携も重要です。一方で医師不足、看護師不足等が全国的な課題になっています。

そんな中、第50回地域医療学会に多久市立病院の原田院長や職員と一緒に、病院開設者（公立病院開設者は主に首長）として参加しました。

元京都大学総長で先端医療振興財団・井村裕夫理事長の「超高齢化社会を迎える我が国の医学・医療の課題」の特別講演は圧巻でした。今や遺伝子情報ヒトゲノム解読時代で、再生医療も進み、これら最先端医療を活かし、長寿社会を支えるべきと実に示唆深い内容です。また、寝たきりにならぬため必要なこと、健康のため身近にできること、それらの知恵を実践につなげたいものです。

気になったのは講演後に井村先生から聞いた「政策が不十分」という指摘です。本質を踏まえた長期戦略にもとづく国家としての施策がないとのこと。政治行政が改善を図らねばなりません。

今回は多久市立病院職員が表彰を受け、研究発表も行うので、その激励にも参加したのです。多久からは、病棟におけるヒヤリ・ハット事案の実験をもとに報告。そんな事例もあるのかと発見になり、対応に万全を期したいと思いました。

この研究活動、初日に7会場21テーマのワークショップ、12ブース24テーマのポスター討論で、計249に及び、2日間で358。まるで医療のQCサークルと感じました。この地道な活動がより良い病院経営につながります。（俊彦）